

# SEEP

第 21号 10・8・8 発行  
代 表 山 本 宏 文  
奈 良 県 葛 城 市 竹 内 290-2  
Tel & Fax (0745) 48 - 5174

Saiwa Education Program(サイワ教育プログラム) E・mail saiwa - yokiyusan@kcn.jp

---

## タイ支援活動を実施

今年も6月6日から16日までの11日間にわたってタイ支援活動を実施した。支援活動の場所は、例年と同じくタイ北部チェンライ県メースオイ郡にあるファイマサン小学校が中心である。また活動内容は、同小学校での奨学金支給、学用品（ノート、鉛筆）、ゴムゾーリなどの配布。さらには、他の地域で、三名の学生への奨学金支援などであった。

なお、今回の参加者は、山本宏文（代表）、山本るみ子、川寄智恵子、葛馬恵子、そして通訳をして下さった竹村俊二の五名であった。以下、その時の模様を紹介し、この活動にご支援・ご協力下さっている皆様方への報告といたします。

## 現地まで

6月5日、出発2時間前の午後10時30分、私たちは関空のチェックインカウンターで落ち合った。すこし前までバンコクで政治的な混乱があり、いろいろな人から「向こうは大丈夫か」と心配して頂いていた。その影響なのか、いつもより乗客数が少ないように感じられる。なお税関などで実施される持ち物や身体へのチェックは、最近とみに厳しくなっているようだ。持っている物はすべて、さらにズボンのベルトまでもがその対象である。

私たちの乗ったTG 673便は、予定通り6日午前4時20分、無事バンコクのスワンナプーム国際空港へ到着した。機内は空いていたので、隣の座席を使い横になることができた。そのお陰で、夜行便であったがあまり疲れることがなく過ごせた。

本来なら、ここでの待ち時間は2時間足らずのところ、減便の影響で3時間余り待たされた。空港内の免税店も、早朝のため開店しているところはほとんどなく、ジッと待つだけの退屈な時間であった。

6日、午前9時ごろチェンマイ空港に到着。無事、私たちの荷物も手にし、衣類などの支援品に対する税金として780バーツ（1バーツは約3円）を支払う。到着ゲートの外に出て、現地スタッフのアヌチット氏と合流。彼とは20年来の友人で、毎年私たちの活動を手伝ってもらっている。彼の手配してくれていたレンタカー（1日1500バーツ、運転手込み）で、活動地であるチェンライまで行く。その距離およそ180<sup>キロ</sup>、2時間余りをかけて走った。

チェンマイ市内を抜けたら山道になる。こちらの道路事情は大変すばらしく、広くて真っすぐな道が続いている。途中、田園風景が広がり見渡す限りの田んぼである。この時期はまだ何も植えられていないが、しばらくすると田植えが始まる。

昼ごろ、チェンライでの常宿センプーホテルに着く。このホテルは朝食付き1泊500バーツ、バスタブ、エアコン、さらには冷蔵庫もあるという部屋だ。なお、この地のホテルは、一人でも二人でも泊まる人数に関係なく、一部屋いくらとなっている。とりあえずそこで小休止。お互い長旅の疲れもあるし、しばらく休憩することにした。

## 奨学生宅へ

その日の午後4時、ティダラットさんの家に行った。彼女はいま、近くのラパチャット大学の2年生。彼女に支援を始めたのは2001年、小学校5年の時からで、もう10年になる。きっかけは、当地で知り合いの小学校の先生から、両親のいない子がいるので、ぜひ奨学金の支援をしてやってほしいと頼まれたことであった。彼女の家を初めて訪ねたとき、祖父母とその子が暮らしていた。まだ、ほんとに小さくて痩せた女の子であった。恥ずかしいのであろうか、私たちがいろいろと尋ねても、小さい声で答えるだけであったが、いまは大学2年になって、実に快活な子に成長していた。また、昨年11月のローイカトーンの折、実施された16部落による地域の美人コンテストで一番になり、その時の写真やトロフィーなども見せてもらった。



(ティダラットさん)

彼女と従兄弟の男の子（ポンサコーン君、高1）に、最近の学生生活や、そのほか家庭での暮らしぶりを聞く。彼女は、大学で今年から日本語を専攻したとのことで、これから手紙を日本語で出すとっておいた。

大学の経費は、制服代、これは昨年買ったので要らない。教科書代は、年間7000から8000バーツ必要で、授業料は年間1万3000バーツである。その他の生活費は、自宅から通学しているのであまり必要ない。少しでも足しにとアルバイトをしている。学校側はバイトの規制はないものの、働き場が規制をしていた、なかなか働き場がないというのが現状である。

一方、ポンサコーン君は高校一年生。タイでは中学4年生という言い方である。ただし義務教育は中学3年までである。年間学費として3500バーツ必要であるが、足りない分は自動車修理の工場でアルバイトをして頑張っている。ちなみにバイト代は、1日100バーツほどになる。またタイヤ1本を交換すると5バーツもらえるとのことだ。



(ポンサコーン君)

その後、みんなで近くの食堂へ行き会食をした。これからも支援をするので勉学に家事に頑張るよう励まし、来年の再会を約束して別れた。

## 支援品の準備

翌7日、朝早く起きてチェンライ市内を散策する。涼しい風で身体を癒し、托鉢するお坊さんの姿や人々の働きぶりを眺めていた。朝早くから生き生きと動く様子を見て心が充電され、今日一日頑張ろうとの気持ちがたかめられる。その後、近くの市場で朝食になるような、バナナ・豆乳・甘い餅米（焼き餅風）・ココナッツで作ったタコ焼き風のものなどを買う。それらを持ちかえり、ホテルのバイキングとともに、みんなで味わった。

ホテルでの朝食後、明日ファイマサン小学校へ持参するゴムゾーリや学用品を買うため、近くの間屋街へ行く。ゴムゾーリは300足で4990バーツ、ノートと鉛筆300人分で2340バーツであった。履物の間屋だからゾーリは揃うのだが、スーパーゆえ品数や種類も少なく、学用品は揃わなかった。次年度からは、文具の間屋へ行かなければならないと思った。



昼食後は、各自自由行動をした。

## フェイマッサン小学校へ

8日は、メイン行事であるファイマサン小学校での贈呈式だ。ホテルを8時過ぎに出発し、100キロ余り離れたメースオイ村のファイマサン小学校へ向かう。途中から曲がりくねった山道になる。今年は雨が少ないのであろうか、以前、船を出して食事をした道沿いの湖（ダム湖）も干上がってしまっている。

予定の10時に学校へ到着。が、そこにチェッサダー校長の顔は見えない。何かあったかと尋ねると、先生の母親が亡くなられたとのことだ。実に御歳100歳、大往生であろうか。

さて、贈呈式場へ招かれ、いつもの先生方や子どもたち、またその両親の方々などが待って下さっていた。式典は、次のような流れですすめられた。

- 1、山岳民族の衣裳をつけた男女5人ずつの子による歓迎の踊り
- 2、8人の子ども（女の子）による農作業をあらわした踊り
- 3、司会の先生から、ファイマサン小学校の紹介
- 4、プラパット教頭先生のあいさつ
- 5、山本あいさつとメッセージを読む
- 6、奨学金の贈呈（30名）、引き続き学用品、ゾーリの贈呈（全児童へ）
- 7、父兄代表、お礼の言葉
- 8、全員による記念写真撮影

## 贈呈式の様子

次に、代表の山本からファイマサン小学校の子供たちに、メッセージとして次のような話をした。次に、代表の山本からファイマサン小学校の子供たちに、メッセージとして次のような話をした。

### フェイマッサン小学校の子どもたちへ贈る言葉（10・6・9）

みなさんこんにちは。私たちは日本からきました。もう何回もこの学校に来ているので、顔を覚えている人もたくさんいるでしょう。

私たち五人は、6日に日本から来ました。はじめに私たちの紹介を致します。私の名前は山本です。次に私の妻で山本るみ子さん、川寄智恵子さん、葛馬恵子さん、いま通訳を下さっているのは竹村俊二さんです。

私たちは、毎年この学校に奨学金や学用品、ゴムぞうりなどを持ってきています。さらに午後からは、奨学金を渡している子どもの家を二軒訪問します。そこでお父さんやお母さんたちから、あなた方の暮らしぶりについての話を聞きます。また今回は、古くて倒れかかった講堂兼食堂を、新しく建て替えるための建築費をお渡ししました。

この活動は、私たちだけではなく、心優しい日本の多くの人たちからお金や品物を預かり、それを私たちが代表してここへ持ってきています。今日、ここであなた方に渡すものには、次のような日本人たちの気持ちが込められていますので、しっかりと聞いておいて下さい。

私たち人間は、みんな仲良くたすけ合わなければなりません。困っている人・苦しんでいるがいたら、自分で出来ることを、少しでもその人の役に立つという心が大切です。世界の人々すべてが、そのような心になれば、人と人との争いは減っていくでしょう。そして、この世界はもっと住みやすい所になるでしょう。

皆さんも、お父さんやお母さんの言うことをしっかり聞いてください、また友達同士仲良くたすけ合って下さい。さらに、学校ではよく勉強してください。そして大きくなったら、この国の人々のために役立つ人間になって下さい。これが、私たちの活動に協力して下さい、日本人たちすべての願いであります。



(サンダルの贈呈)



(贈呈の様子)



(ファイマサン小学校の子供たち)

## 奨学生の家へ

午後から奨学生の家を訪ねた。その日は雨で、赤土でぬかるんだ山道を上り、一軒目の家は Kanda さんという小学 6 年生の女の子の家だった。

この子は、父親 (44 歳)、祖母、そして妹 (4 歳) の 4 人家族である。母親は妹の産後間もなく亡くなられた。仕事は農業、近くの山を切り開いた農地 4 ライ (6400 m<sup>2</sup>、なお、1 ライ = 40m × 40m = 1,600m) で、陸稲やトウモロコシなどを作っている。陸稲は 6 月に植え、11 月に収穫できる。というのも、タイはいま雨季、毎日スコールがある。それは 20 ~ 30 分ほど大粒の雨が日に何回となく降る。またトウモロコシは 5 月に植え、9 月ごろに収穫できる。農閑期には、日雇いの仕事で、道路工事などを住み込みでしている。日給は 100 バーツだが、住み込みゆえ諸経費が引かれ、手元にはあまり残らない。この土地に暮らし初めて 7 年目、両親はタイ語が話せず、通訳を介してのやり取りだった。この部落はラフ族の村、150 から 160 世帯の人が住んでいて、ほとんど同じような生活環境である。

もう一人の奨学生宅は、Jajo・Jafu という名の小学 1 年の男の子の家。この子に入ったころ雨が強く降ってきた。茅葺の屋根の下で、車座になって話を聞いていたが、雨漏りがする。記録しているノートが濡れる。座る場所を代えて聞いていたが、雨漏りのする家は珍しいので何うと、火災のため新たに建てたがまだ完成していないので、とのことであった。





(奨学生の家を訪問)

さて、ここの家族構成は、父（44歳）と母（34歳）、子どもは6人で彼は4番目である。17歳の長男は農業を手伝っており、子ども達は親の言うことをよく聞いている。今はもう崩れてしまったが、昔の日本を思い出す。新しい家には電気はなく、いつ電気が点くかは不明だ。また炊事場がないので、隣りのものを借りて済ませている。彼らには国民証はなく、それゆえこの家には地番もない。現在は、仮の国民証である。

奨学生宅を尋ねるのは二軒の予定であったが、ぜひもう1軒の家に行って欲しいとのことで、Niput・Jake（小4、男子）君の家に行った。

この子の両親は、父は8年前に亡くなり、母はその後行方不明で、現在は祖父母が育てている。祖父はすでに88歳、60歳の祖母がトウモロコシなどを作ってくらしている。この子たちの厳しい生活環境に、私どもはより一層の支援を誓うとともに、恵まれた日本の子どもたちが、なぜ不登校や引きこもりなどに、と改めて考えさせられた。



(奨学生の家を訪問)

## 別枠の奨学生

昨年からはじめた事業に、大学生（タリカ・タホンさん）への奨学金支援の活動がある。その贈呈式を9日午前11時から、地域振興の拠点であるOBTにて執り行った。この事業は、最初OBTからの要請で始められた。というのは、貧しくとも優秀な大学生を支援することにより、自分も頑張れば奨学金をもらえると、



地域の子どもたちに希望を与えたいという思いからである。だが当時の所長ヤピー氏は選挙で負け、いま所長は新しくなり、新所長のもとで初めての奨学金支援である。

OBT二階での贈呈式で、チンダ副所長のあいさつ、続いて山本からのあいさつとして、なぜこの活動が始まったかの経緯や意義を紹介し、現地スタッフのアヌチット氏、また私も日本から来た人たちも紹介した。

式典後、当のタリカさんから学校生活

や近況について話を聞いた。なお、姉のパニサラさん（24歳）は多少日本語が出来るので、彼女を通じていろんな話を聞くことが出来た。学校生活は、1学期は6月11日から10月30日に終了する。2学期は、11月1日から3月15日までである。なお授業は朝7時30分から始まり、午後5時に下校する。また授業がない時期は地元へ帰り、子どもたちに学習のお手伝いをすると約束通り、子どもたちに勉強を教えたり、ともにスポーツをしたりしていた。



(OBT での様子)



(OBT にて 真ん中がタリカさん)

今回のタイ支援の活動も、予定通り順調の進めることが出来ました。現地の人々の喜び、感謝は、ご支援下さった皆様方に対してのものであります。小さい渦ながら、この活動を通じ、タイと日本、いや世界の人々が、お互いに手を取り助け合う一住みやすい世の中を作るための一助になればと願っております。皆様方の、さらなるご支援・ご協力をお願いし、活動報告といたします。

最後に会計報告を致します。

会計報告 ( 09・8 ~ 10・7 )		単位 円	
収 入		支 出	
奨学金寄付	188,000	現地活動費	852,513
その他寄付金	1,447,500	印刷費	17,800
アルミ缶売却益	39,200	通信費	27,950
衣類送料寄付金	35,000	活動費(建築準備費)	87,000
葛城山麓を守る会切	100,000	葛城活動費	2,963
新聞など売却金	21,520	車両費	89,317
会 費	136,000	積立金	770,000
前年度繰越金	9,556	雑 費	31,638
合 計	1,886,776	合 計	1,879,181

※ 1 パーツ = 3,0 円 として計算

現地活動費内訳

奨 学 金	219,000	学用品・ゴムゾーリ	22,260
食堂兼講堂建築費	390,000	滞在費	50,313
交 通 費	69,870	その他	101,070

差引残高 7,595 円 (次年度に繰り越し)



(食堂兼講堂建築の様子)